

HorseTalk

もっと知るう、馬のこと

第3回 To Bit or Not to Bit? (ハミは要らない?)

ハミなし・頭絡なしで乗っているという
「それで馬をちゃんとコントロールできるのか?」と
驚く人が少なくありません。でも、まったく問題なしです。
逆に馬たちはおとなしく、よく動くようになりました。
人間だって、鉄の棒が口の中に入っていたら嫌ですよ。

文・写真=田中雅文 (フリーダム・ライディング・クラブ)

PROFILE 田中雅文 (たなか・まさふみ)

通訳・翻訳、英語教育、国際会議運営に20年携わり43歳で引退。「海外乗馬を通じ世界の文化を知る」フリーダム・ライディング・クラブ (FRC) の活動を開始。以来25年にわたり、「乗り方は自由、舞台は世界」をモットーに世界各地への馬の旅を続けている。国内では八ヶ岳南麓・山梨県小淵沢町で、外乗とエンデュランスを中心とした「FRC小淵沢」を運営。1951年、東京都出身。本誌編集顧問。



紀元前3500年頃には すでにハミがあった

馬は、人の歴史をつくった動物だといわれています。移動手段として、戦争の道具として、人間は馬を思いのままに制御しようと試み、さまざま馬具を開発してきました。

鞍、鐙、ハミといった馬具の中で最も重要な発明だとされているのが、ハミ (銜 / bit) です。ハミの歴史は大変古く、カザフスタンの遺跡で見つかった紀元前3500年頃の馬の歯に、ハミの痕が残っていたとか。この頃にはすでに、馬具を用いた馬の家畜化が行われていたと考えられています。

ちなみに、鐙が発明されたのは西暦300年頃の中国。鐙は、ハミよりはるかに新しい馬具なのです。

馬は前歯と奥歯の間に、「しろうかんえん 歯槽間縁」と呼ばれる歯の生えない部分を持っています。ハミをここに収めれば、馬は口の中のハミを歯で噛むことはありません。

歯槽間縁を見つけた人の喜びは、いかほどだったでしょう。

「前歯と奥歯の間に歯がないぞ、ここに棒を入れてヒモでつなげば、馬と細かな意思疎通ができる。馬は、人が乗るために神がつくった生き物だ!」

とさえ思ったのではないのでしょうか?

ハミはそれほど長い歴史があり、とて

も重要な馬具ですが、私は使いません。一般的な頭絡も使用せず、その代わりに、ハミなし頭絡 (bit-less bridle) やロープホルターを使っています。エンデュランスに取り組むようになった20年ほど前から、このスタイルで馬に乗るようになりました。

それ以前の私は、ごく当たり前のようにハミを使用していました。ハミは人間が馬をコントロールするために考えた最高の道具であり、ハミがなければ馬と人の歴史も変わっていただろうと、信じて疑わなかったのです。ハミ受けの重要性を聞いたたびに、上手くできない自分にコンプレックスを持っていたほどでした。

しかし1998年、オーストラリアでエンデ

ュランスを始めた私は、手づくりの簡単なロープホルターを使用して好成績を収めているトップライダーたちに出会いました。興味を持った私はそのひとりに、「なぜ、ハミを使わないのか」と尋ねました。相手



馬の頭骨。○で囲んだ歯のない部分が歯槽間縁。



ロープホルターの一例。



は、日本でもお馴染みのボブ・サンプル氏（元全豪エンデュランス協会会長）です。

彼は、「エンデュランス馬は、朝から晩まで1日中競技を続ける。走行中に草を食べ、水を飲まなければならない。口の中に重い金属の棒をくわえさせていたら、かわいそうだろう?」といって、私の主戦馬Freedom Sebastianの顔のサイズに合わせてロープホルターをつくり、プレゼントしてくれたのです。

Freedom Sebastianはその後、このロープホルターで好成績を収め、来日してからは全日本エンデュランスでベストコンディションホースに輝きました。

乗馬ビギナーこそ ハミを使わないほうがいい

自分のエンデュランス馬にはロープホルターを使うようになりましたが、FRCのお客様に乗ってもらう外乗馬には、通常のハミと頭絡を使用していました。お客様が、ハミなしで乗ることを怖がったからです。「こんなロープで、馬を止められるのですか?」とよくいわれました。

確かに、当時の市販のロープホルターは口のまわりにたるみがあり、馬に細かい指示を瞬時に伝えることができませんでした。しかし、ボブが手づくりしてくれたホルターには、あらかじめ引き伸ばされた「pre-stretch」のロープが使われており、使用中にさらに伸びる心配なし。馬の顔にピッタリと合っていてズレることもありませんでした。

2003～2004年頃からでしょうか、さまざまな種類のハミなし頭絡（bit-less bridle）が開発され、世に出まわり始

めました。これらの頭絡は、テコの原理（leverage）を利用しているのが特徴です。テコを利かせることで、馬の口まわりがキチンと押さえられるようになっていきます。

私は市販のハミなし頭絡を使って、お客様に騎乗してもらうようにしました。すると、どうでしょう。馬たちはおとなしくなり、よく動くのです。首を振っていた馬も、振らなくなりました。

経験の浅いライダーは、コブシが安定しません。むやみに手綱を引っ張ると、歯槽間縁の柔らかい歯茎の上に置かれた金属性のハミが前後の歯にガチャガチャとぶつかって、痛い思いをさせます。真ん中にジョイントのあるハミを突然強く引くと、折れ曲がったジョイント部分が口の中を傷つける恐れもあります。

馬のウエルフェアを考えると、私は初心者こそハミ、特に金属製のハミを使うべきではないと思います。騎座が安定し、コブシを自由に柔らかく使えるようになって初めて、ハミは馬をコントロールするための優れた道具になるのではないのでしょうか。

ハミを使用しない動きは世界に広がっていますが、FEI（国際馬術連盟）やほかの競技団体の多くは、ほとんどの競技種目で



無口にリードを付けただけでの騎乗。鞍も鐙も蹄鉄もなし。

ハミなしの馬の競技参加を認めていません。

そこで、長年続いているこの規制を変え、ハミなしの馬具を普及させる団体「World Bitless Association」が2018年10月、英国で発足しました。

「World Bitless Association」では、ハミを使わないことが馬のウエルフェアにつながるとして、獣医、トレーナー、馬術指導者、行動学者らに広く参加を呼びかけています。この団体が提唱する馬のトレーニング方法は、科学と共感に基づいたものであり、その原則を「LIMA（Least Intrusive, Minimally Aversive=最小の侵襲性、極小の懲罰）」と呼んでいます。

今年の9月5日には、「World Bitless Horse Day」というイベントの開催も計画中です。興味のある人は、ぜひホームページをチェックしてみてください。

[World Bitless Association]

<https://worldbitlessassociation.org/>
(UK Registered Charity number 1155018)

[Bitless Bridle の主要メーカー]

- ◆ Circle-X
<https://nurturalhorse.com/>
- ◆ Light Rider
<https://www.lightriderbridle.com/>
- ◆ Orbitless
<http://www.orbitlessbridle.co.uk/>
- ◆ Transcend
<https://www.transcendbitlessbridle.com/>

INFORMATION

ハミなし頭絡で八ヶ岳の外乗を楽しみませんか
FRC小淵沢

山梨県北杜市小淵沢町10101 FUJII STABLE内
Email : frc.kobuchizawa@gmail.com
URL : www.frckobuchizawa.com